

(小論文 2 日目)

問題用紙

次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

これはスワンソンの体験談だが、あるとき彼が幼い息子の世話をしていると、通りすがりの女性から、「パパが子どもの世話を手伝ってくれるなんて、坊やのママはお幸せね」と言われたという。

この言葉に侮蔑に当たるような語彙は何もない。しかし、「手伝う」という言葉を選んだことで、この女性は、子どもの世話をする責任はまず母親にあり、男性を完全な親としてではなくヘルパーと見なすイデオロギーを前景化させた。自分はそのイデオロギーを支持しているということを暗に伝え、スワンソンに同調するようさりげなく促したことになる。

間違いなく、彼女はよかれと思ってスワンソンにその言葉をかけた。実際、彼女は親切だった。しかし、その親切は、スワンソンとその配偶者をひそかに傷つける親切だったのである。

S. Hershovitz. *Nasty, Brutish, and Short: Adventures in Philosophy with Kids*.

御立英史訳 『父が息子に語る壮大かつ圧倒的に面白い哲学の書』より引用

「ダイヤモンド社」

問い

「スワンソンとその配偶者をひそかに傷つける」行為と類似する例を挙げた上で、なぜ人は傷つくのかについて 600 字以内で説明してください。